

C-11 ターツに関する研究(第16報) タイトスカートのターツについての知見(その4)
高知女大 市川一夫 松山東雲短大 武石千代 黒田基洋子

目的 戦後二十数年食事情の改善と体育の進展によって、若い女子の身体はすなおに成長してきている。このような環境のもとにおいて女子腰部の発達はタイトスカートのターツ量にすれば、どのようなようになっていゝかを調べることにある。

方法 短大女子学生を身長分布により層別、それより比例サンプリングによる標本抽出によつた抽出各人については Kunick 氏変法により、L₇、F₀におけるウエイストよりの広がり、腰部の前後の中心で左右にわけ計測する。左右の各々についてターツは、前部に二つ、脇の部各一つ、後部に二つ入れることとする。

結果 平均値についてみれば、左右、前後共に大きな差異はない。前部ターツについては広がり(H-W)の 7.4~9%、脇の部各々では多少右側のターツ量が左側のそれより大きい程度であった。